

平成28年度 第4回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会議

日 時 平成28年12月13日(火) 18時30分～

場 所 湯梨浜町中央公民館泊分館 2階大会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の今後の取組みについて
「誰(何)に対し、何をすればよいか」とりまとめ、方針決定
泊地域の問題点への戦略について(簡略版)・・・資料1

4. その他

5. 閉 会

湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会委員名簿

任期：平成28年8月10日～平成30年8月9日（2年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	産 鳥取県漁業協同組合 泊支所	組合員	朝日田 卓朗	
2	産 湯梨浜町商工会	副会長	石沼 友	副会長
3	産 鳥取中央農業協同組合 泊支所	泊支所金融共済課 兼 ふれあい推進課長	岩本 馨	
4	福 社会福祉法人 湯梨浜町社会福祉協議会	事務局長	山田 志伸	
5	金 株式会社山陰合同銀行 泊出張所	出張所長	鷲野 星夫	
6	公募		田嶋 昭彦	
7	公募		遠藤 公章	会長
8	公募		渡邊 由佳	
9	公募		中原 政喜	
10	公募		石井 美佳代	
11	公募		坂田 克	

	湯梨浜町	副町長（地方創生担当）	山根 孝幸	
	湯梨浜町みらい創造室	室長	岩崎 正一郎	事務局
	湯梨浜町みらい創造室	町民協働担当主事	谷岡 雅也	事務局

泊地域の問題点への戦略について（簡略版）

平成28年11月

泊地域小さな拠点検討協議会

1. 人口増の戦略（人口を増やすためにはどうすればいいか）

区分	誰に（何に）対し	何をしたらよいか
産業	農業、漁業希望者 後継者のいない農業、 漁業、商工業者	<ul style="list-style-type: none"> 各従事者への体験など素人でも気軽にノウハウを習得できる仕組みをつくる。住み込みや賃貸など生活するための場を提供する。 古い慣習を見直し、多様なニーズに対応できるようにする。 農業、漁業就業支援のPRの充実。泊独特の特典をもうける。
	若い人（もどってもら うために）	<ul style="list-style-type: none"> 就職先を探す。（ハローワークの仕事）
	J A、行政	<ul style="list-style-type: none"> （J Aに相談）異業種参入の支援・営農組合の拡大や農地レンタル制度の整備等による労働力の創出と集約。
	行政、事業主	<ul style="list-style-type: none"> 泊地域在住者の雇用や地場産品の開発、販売について優遇するような施策をつくる。
	漁業施設	<ul style="list-style-type: none"> 港を、漁業従事者としての漁港機能と娯楽のための船舶所有者のためのマリーナ機能を分けて、より多様なニーズに対応する。
	耕作放棄地	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を一般の人に開放し、家庭菜園として利用してもらう。
	店舗	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップのような敷居の低い店舗が集まったショッピングモールをつくる。 ハワイ夢マートのような生産者（事業主）が直接介入できる物産館をつくる。 ※店舗を集約することにより、人が集まる。買い物が楽になる。観光地化できる。 ※集まった個人事業主でまとまって移動販売などをすれば高齢者対策にもなるかも。
空き家 空き土地	県内外の人 空き家所有者	<ul style="list-style-type: none"> 現在の泊地域の空き家の実態を掌握しその物件を手放しやすくして、賃貸、売却可能な空き家をPRする。 現物の調査とアンケート作業を継続。
	未管理物件の不在地 主・移住定住者	<ul style="list-style-type: none"> 宅地、山林、農地の無償譲渡の斡旋、仲介 ※空き家、空き土地有償であれば買い手が付きにくい物件でも無償であれば成立するのでは？
	区長さんとか（区内 で）	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を聞き、持ち主に相談してみる。（総会とかで区民にきいてみてもいい）
住宅、造成	泊に所縁があつて、住 みたい人 移住、定住者	<ul style="list-style-type: none"> 公営住宅を建てる。住宅用地をつくる。 町有地造成 候補地隣接地権者へも意見を伺い、賛同得られなければ単独・小規模でもよいので早く進める。実績が上がればその他地権者も前向きに考えてもらえる材料になる。 新規住宅を建築する人の借入利息の助成をする。（日吉津村の例）
	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に特化した賃貸住宅の建設とそれに係るコミュニティの形成

	区長さんとか（区内で）	・住宅が建てられる土地がないか聞く。（総会とかで区民にみいてみてもいい）
教育	園児、生徒学校、施設	・こども園、泊小学校において特色のある教育を実施し、差別化を図る。（例：泊の自然や人を活用した課外授業、高度な英語教育など。） ・泊小学校の特色をよりPRする。 ・旧村内へ児童養護施設を誘致。
	小学生、高齢者子供をもつ親	・学校以外で子供が集まる場を複数つくり、地域の高齢者などに見てもらおう。（例えば、各地区の集会所を使ってその地区の高齢者が管理者になって、子供の宿題を見たり、高齢者と遊んだり。） ・泊地区の中学・高校生限定の町営学習塾。
	高校生以下の子供	・一人当たり児童手当月額2万円 ※18歳まで生活すると地元への愛着が醸成される。
学生	中学生、高校生	※地域や大人とのつながりが薄い。 ※学校や勉強するための場所が遠い。 ・その世代の組織をつくり、色々な事業に参加してもらおう。（例えば、地域イベントに関わったり、屋台を出したり、特産品をつくったり、観光PRしたり） ・在住の大学生などを講師にした塾や勉強できる場所を設ける。
	県外の学校に進学された人	・地元就職先の情報提供と斡旋。
	行政	・学校（分校）・福祉養護関連施設・学生寮の誘致や里親制度の企画。
人を呼び込む	出来るだけ多くの人（県内外、町内外） 山陰	・ゆりはま大漁まつりのような水産資源を生かしたイベントを定期的 に開催する。 ・アウトレットモール等大型ショッピングモールの誘致。 ※交流人口が増えると同時に利便性が上がり移住者増につながる。 ・多世代が楽しめるアミューズメントパーク「ラウンドワン」（山陰初）を誘致。 ※施設を誘致することにより、周辺に店舗ができるなど賑わいを創出し、利便性を上げ居住環境が整ってくることで移住者増につながる。 ※グラウンド・ゴルフ、マリンスポーツとのコラボレーション。
	周辺地域 施設	・お金がかからないけど人が集まる施設（公園、釣り場、観光ストリートなど）の周りにお金の落ちる施設（カキ小屋、食堂、店舗、飲食店、宿泊施設など）をつくる。①港のトイレ駐車場を整備して他海浜公園的にする。②漁協さんとか港湾の事業先で釣具・釣餌などを販売。③釣果情報を中部の釣具屋に配信する。 ・泊の特産や自然を活用した施設とそれに関連する専門店舗（例えば、グラウンドゴルフ、魚釣り、ウォーキング、マリンスポーツなど）などの充実。
	その他	・泊ブランドを考える。 ・泊カフェ（週末だけとか）

2. 高齢者のための戦略（お年寄りがこれからも暮らしていけるにはどうすればいいか）

区分	誰に（何に）対し	何をしたらよいか
買い物	高齢者 買い物難民の方	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗を集約する。（移動距離を少なくすることにより体力的な負担を減らす） ・個人事業主がまとまって移動販売車を運営する。 ・交代制にして、買い物と一緒に行く。 ・小さな拠点事業で建設される複合施設内に売店（公設民営、生協方式、町営など）を設置する。登録制の御用聞き（買い物代行を）併設する。
	地元小売店	<ul style="list-style-type: none"> ・町が店舗の継続と充実について地元の小売店とどうしたらいいか承継問題含めてコンビニ出店・町営店舗などの可能性など話し合いする。
福祉	高齢者 独居老人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設と保育施設を融合する。 ・高齢者向け集合住宅の建設（独居老人、親族ともに安心）
	近所の人たち	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけをする。
	社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・今のまま、内容が充実していけばよい。
医療	住民 地域内医院、歯科医	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関継続のために支援する。 ・町が現在の意思と承継者の有無や引退時期など将来のことをきちんと話し合い医療サービスが途絶えないよう早めに対策をたてる。
生きがい	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者だからこそ持っている知識や技術（ノウハウ）を次の世代に引き継げられる場を提供する。（生きがい、やりがい、交流）
交通（バス）	エリア内住民	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズは少なくとも、子供の支援が得られない人には必要 車両コンパクト化などして維持する。存続のために利用促進をエリア内住民へアピールする。
その他	泊内の高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・不便と感じる事をアンケート調査

3. その他の意見

※泊地域をどのような地域にしたいのか（コンセプト、イメージ）

※全国の事例をもっと調べて参考にしたい

※小さな拠点の中に

- ・高齢者や単身世帯の方のための、惣菜を売ったり、ほか弁屋が併設された店舗（コンビニ）をつくる。
- ・インターネットが使えない方のために、ネットスーパーの取り次ぎをするコーナー。
- ・羽合地区児童の泊小学校への転入を受け入れることを機に、羽合や東郷地区の児童や親が泊地区の住民と交流がもてるスペース。
- ・小さな拠点のなかに住民が参画できるまちづくり会社を作り、人口増の戦略はそこで企画を考える。泊の中高生にも参画してもらおう。（野外フェス、特産品コンペ、地藏盆オープン相撲大会、牡蠣養殖会社、村民運動会復活、温泉の掘削事業など）